平成21年度(財)日本中体連バレーボール競技部　第1回常任委員会　会議録

日　時:平成21年5月30日(土)13:00～16:30
場　所:味の素ナショナルトレーニングセンター　第5会議室

出席　平手　陽部長、大村暢彦副部長(北海道)、高橋憲太郎副部長(指名・審判規則委員長)、
三上和男副部長(指名・競技委員長)、勝見俊也副部長(指名・強化委員長)、
常任委員:渡部隆一(東北)、関口　満(関東)、賀子貴和(北信越)、高橋容一郎(東海)、山野上聖一(近畿)、
蕨　敦志(中国)、樋野慎平(四国)、吉村英樹(九州)
指名常任委員:吉田征弘(事務局長)
事務局:大塚洋一、安藤祐枝、中村哲也、大谷将博、渡辺　裕、石井良輔
監事:阿部良行、栗原博之
陪席　財団法人日本バレーボール協会:以下「JVA」
萩原秀雄国内事業本部長、成田明彦強化事業本部長、斎藤聖二国内事業部長
欠席　神山信次郎(指導普及委員長)、事務局:福島久登、堀江朋一、杤堀仁美

司会:吉田　　記録:大塚

配付資料
1 平成21年度(財)日本中体連バレーボール競技部活動方針
2 (財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部会規約
3 平成21年度全国中学校体育大会中央連絡会要項
4 JOCジュニアオリンピックカップ第23回全国都道府県対抗中学バレーボール大会開催要項(案)
5 平成21年度第39回全日本中学校バレーボール選手権大会要項
6 平成22年度第40回全日本中学校バレーボール選手権大会要項(案)
7 大会参加チームのユニフォームの規定について
8 代表者会議に参加される際の服装について
9 平成21年度(財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部審判規則委員会の基本方針について
10 全国大会派遣審判員一覧
11 平成21年度(財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部における6人制ルールの取り扱いについて　改訂版
12 (財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部北海道ブロック審判研修会報告書
13 (財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部九州ブロック審判研修会報告書
14 (財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部大分県審判研修会報告書
15 (財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部関東ブロック審判研修会報告書
16 (財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部東海ブロック審判研修会開催要項
17 平成21年度日本中体連バレーボール競技部「指導普及委員会」活動方針及び事業内容
18 平成21年度全国中学生バレーボール指導者研修会(案)(北海道会場)
19 平成21年度日本中体連バレーボール競技部「強化委員会年間計画」
20 全国中学生バレーボール選抜強化(第一次)合宿要項
21 全国中学生バレーボール選抜強化(第一次)合宿推薦要項
22 2009中高合宿全日本ジュニアオールスタードリームマッチ参加者名簿、結果、内容報告書
23 平成20年度収支決算書
24 財団法人日本バレーボール協会競技会開催交付金の申請方法について
25 各都道府県バレーボール協会連盟別選手登録数一覧
26 財団法人日本中学校体育連盟バレーボール競技部チーム登録・選手登録数一覧
27 全日本バレーボール選手権大会第40回大会記念誌作成(案)
28 新ホームページ(案)
29 平成21年度財団法人日本中学校体育連盟バレーボール競技部常任委員名簿
30 平成20年度(財)日本中体連バレーボール競技部第3回常任委員会会議録
・ 株式会社ミカサ・株式会社モルテン　両社のニューボールのチラシ各1枚

◆常任委員会開始に先立ち、JVA　萩原国内事業本部長より挨拶
今年度より私が国内事業本部長、成田氏が強化事業本部長として活動するので宜しくお願いしたい。このような機会を設けていただき、平手部長以下、(財)日本中体連バレーボール競技部:以下「競技部」の皆様方に感謝している。近年、各種全国連盟とJVAとの隔たりを感じている。今後こうした機会を極力利用し、コミュニケーションを図りたい。

JVAとして、競技部との課題をお話しさせていただくので、ぜひご検討願いたい。

1 9ブロック長身者合宿について。

競技部として、必要・不必要という両方の考えがあるのではないか。約1000万円の予算を必要ないものに支出はできない。検討していただき、今後の方向を考えていきたい。小学生男子を対象に「フェスティバル」的なもの、いい選手を発掘していく、「オーディション」や「エリートアカデミー」のようなものを考えている。9ブロック合宿が不要であるなら、そちらに予算を充てたい。全国から集めた選手を早くから長期的に強化していくことにお金をかけることで、男子の低迷に少しでも歯止めをかけることができるのではないか。勝見強化委員長らとの話の中で、9ブロック合宿でなくても、競技部で長身選手を推薦できる体制は整っていると聞いている。22年度事業について検討願いたい。

2 U14大会について

各ブロック、各都道府県で温度差がある。「クラブでやっていける」、「クラブなんて無理」…いろいろな意見がある。今しばらくは、各ブロック、各都道府県の考え方で大会をやってもらっていい。サッカーやバスケットボールは、早くからクラブ化し、発展してきている。バスケットボールの「bjリーグ」がいい例である。そこで、バレーボールもクラブを充実させたい。そのために、U14大会を発展させたい。「天皇杯」を日本一の大会にしようと考えてきたが、予選が充実しないので難しい。クラブのチーム数が少ないこともその一因である。中学校、高校を卒業した人が、クラブチームを立ち上げるようになってほしい。競技部と切り離したものではないと考えている。私自身も地元の坂戸市でU14のクラブを作り、指導を始めた。その事を受け、坂戸市では男子チームがない中学校へ、市教委がクラブを作る働きかけをすることになった。こうした行政とうまく連携していくことが今後必要である。男子バレーボール指導の優秀な教員が転勤し、異動先に男子チームがないといった現状があると聞く。そうしたことの解消にもなるのではないか。

3 ミカサ、モルテンのニューボールについて

来年度開催の全国大会には全部そろって導入したい。第23回JOCカップは、新しいボールでやらせてもらいたい。このことについて、検討していただきたい。高校は来春の「春高バレー」から使用することが決まっている。

4 新ルールの適用について

タッチネット、ペネトレーションなど、新ルールを若年層のバレーボール競技者に対して適用することは、安全面・教育面でいかがなものか、独自のルールを検討することも考えていきたい。

5 JVA個人登録について

ご協力いただき、その結果、登録数が増えてきている。現状は、JVAに個人登録しなくても、全中大会に出場できる。しかし、JVA傘下のチームであるので、JVAを運営していくためには必要なこととしてご理解いただき個人登録を進めていただきたい。個人主義ではなく、チームスポーツであるバレーボールなので、登録はみんなでやっていくという団体主義の気持ちが必要である。強化費に5億数千万充てられているが、男女のシニア、ジュニア、ユース、高校、ビーチなどいろいろと分配していくと、それぞれに充てられる強化費はわずかになってしまう。サッカーなどは巨額を強化費に充てている。お金ばかりではないが、わがバレーボールを考えるとかなり厳しい。全日本を応援していく体制づくりが必要であろう。そうした観点からもぜひ、個人登録をお願いしたい。

◆JVA 成田強化事業本部長より挨拶

萩原氏と私が、昨年度までの役割が交代した。これからも萩原氏と協力してやっていきたい。全日本シニアは、今月15日から女子、18日から男子がロンドンオリンピックに向けスタートした。メダル獲得に向けて頑張っていきたい。国内では、JOCから12競技が強化指定されたが、バレーボールも含まれている。メダルを取れる可能性があるという評価を受けている。植田男子監督、真鍋女子監督とも「命がけで頑張る。」と言っている。応援をお願いしたい。

中学校の教育現場の大変さは十分わかっているが、競技部には、底辺からの選手発掘と育成をぜひお願いしたい。特に男子長身者がいない。また、運動能力も必ずしも高いとはいえない。選手を発掘することが大切である。お互いに知恵を出し合ってやっていきたい。中学生は、日本の宝だと思っている。ご協力をお願いしたい。

※ボールメーカー2社にニューボールについて説明を依頼

◆株式会社モルテン池原様、松原様、中釜様より、新ボールの説明と現状

オリンピックイヤーに合わせて作っている。パンフレットは5号球である。4号球は5000円。12枚から18枚パネルにし、視認性を高めた。六角方の突起をつけた。今秋には市場に出す。今後、新しいボールに生産を切り替えていく。

◆株式会社ミカサ谷田部様より、新ボールの説明と現状

4号球においても8枚張り。ディンプルをつけ、ソフト感を引き出した。今までのボールより使いやすくなっている。全国大会、各ブロック大会において、新しいボールを使用していただけないかご検討願いたい。従来のボールと新しいボールは5:5位の割合で売れている。今後、新しいボールに生産を切り替えていく。

※ニューボールについての意見等

・ルール、用具の改定については、(財)日本中体連バレーボール競技部会(8月全中期間中)で提案され、承認されると、(財)日本中体連の理事会・評議員会で検討される。提案が通った場合、次大会からの採用になるが、経済的(金銭的)な負担を伴う場合は、1年の経過措置がとられるので、早くて2年後の大阪大会からになるだろう。

・年ごとに男子・女子でメーカーを入れ替えて使用している。今回は両社のボールの形状がかなり違うので、どのようにしたらいいか。

・カラーボールに変わった時は、色だけの違いだったのでそれまでの白のボールと併用できた。今回はかなり違うので、早めに決めていかないと選手への影響があるのではないか。
・今回は8枚張りと18枚張り、小学校の軽量4号球が18枚張りになったときも、中学校は12枚張りで変更しなかった。形状が違うものを使用していいかどうか。実際に使ってみてどうなのか、両社のボールの違いはわからない。
・ニューボールが認知される、目に触れるような活動をしてもらいたい。また、部活動費は少なく、中学校で新たに購入していくのは厳しいのが現状である。
→ 説明、質疑後、両社退席
・チーム等からの問い合わせに対し、「決定ではないが、変わる方向である。」との共通認識でいく。

・萩原国内事業本部長より JVAとしては、国内競技委員会で今年度から使用することを決定した。競技部の事情もあるので、1年間の経過措置をとりつつ検討していただきたい。また、モルテンは今秋発売とのことだが、少しでも早く認知してもらうような努力を依頼する。枚数の違いは業者の独自性で致し方ないのではないか。オリンピックごとにニューボールが出るようなことでは、中学校では対応できない旨、メーカーに伝える。JOCカップについては、新しいボールでやらせていただきたい。各都道府県代表チームには、宣伝を兼ね、認知度のアップのためにも、できる限り安く購入できるように、メーカーに伝えた。

開会のことば 高橋副部長
既に長時間を要しているが、この後も多くの内容が予定されている。効率よく、かつ慎重な審議をお願いしたい。

1. 報告事項

1)平成21年度(財)日本中体連バレーボール競技部活動方針
◇平手部長
・平成21・22年度期も部長としてやらせていただくことになった。2期目となる。宜しくお願いしたい。
・活動方針としては、昨年度までと大きく変わることはない。
JVA・個人登録(MRS)配賦金が競技部の運営資金である。JVA個人登録をぜひとも進めてほしい。また、組織の活動を充実していきたい。各業務委員会が、年度に1回は集まり、顔合わせができるようにしたい。ブロック長にも何らかの形で関わっていただきたい。予算の執行について、配賦金を現場のチームに還元されるような形で使っていきたい。各ブロック大会、全国大会、JOCカップの充実等々に寄与できるように執行していきたい。
◇9ブロック長自己紹介 ◇新役職紹介 → 本会議録 「出席・欠席」欄の役職名参照

2)日本中体連関係
①五者会議 →別紙参照 ②(財)日本中体連会長・バレーボール競技部担当理事は、6月28日に決定。

3)JOCジュニアオリンピックカップ第23回全国都道府県対抗中学バレーボール大会→別紙要項参照
・大会参加費を徴収したい、使用球をどうするか、検討事項
・事務局長は、財間常文氏が続投される。
・ホームページに資料を載せていきたい。
→大会参加費について 異議なし(「やむをえないであろう」との認識)
→使用球について
競技部で各都道府県チームにモルテン・ミカサ各6個計12個のボールを購入し、2年間配付する。(各計24個)

ここで、会議を中断し、味の素ナショナルトレーニングセンターの施設見学を行なう。15:10～16:10
◆施設見学 専任コーチングディレクター バレーボール担当・北原 勉氏 案内
バレーボール専用コート(全日本女子シニアチーム合宿中)、休憩室、器械体操専用コート、トレーニングルーム、ウエイトリフティング練習場、クールダウン用プール、食堂、宿泊室、浴場
北原氏より:この施設は、施設設備が素晴らしいということだけではなく、多種目のトップアスリート、トップコーチが一堂に集まる施設である。そのことに意義がある。それぞれの競技の「チームジャパン」であるが、この施設に入ったら競技種目に関係なくすべての人が「チームジャパン」の一員である。そのことが素晴らしいことをご理解願いたい。

4)平成21年度第39回全日本中学校バレーボール選手権大会(大分大会)
①要項
・5 会期 お盆のラッシュの影響を受けるのではないか心配している。
・6 会場 「べっぷアリーナ」は通称で、正式名称は「別府市総合体育館」である。
・11 大会使用球 男子:ミカサ、女子:モルテン
・13 参加申込 締め切り日 8月10日(月)は厳守のこと。翌11日(火)組合せ抽選のため。
・18 本部連絡先 夜間 ホテルサンバリーアネックスに決定。

・本日の大会要項を持ってフジテレビジョン、サンケイ新聞社に後援依頼等を競技部事務局で行う。
②7月4日(土)・5日(日)　大分市、別府市
・抽選会リハーサル、会場視察、事務打ち合わせを、平手部長、三上競技委員長、吉田事務局長で行う。
・九州ブロック審判研修会には、高橋審判規則委員長、富田審判規則副委員長で行なう。

5)平成22年度第40回全日本中学校バレーボール選手権大会(岡山大会)
・主催、主管、後援の順に変更
・会場は、エアコンの状況により一部調整中。
・13　申込みE-mailはだめか、大分大会要項にはないが→チェックが大変であったというのが、石川大会での反省。
・16　旅行代理店は、近畿日本ツーリストに決定。
・20　本年4月に市教委内に事務局が設置されたため、まだネット環境が整わず苦労している。

6)各業務委員会より
①競技委員会
◇大会参加チームのユニフォーム規定について
・1．ソックスについて変更。その他変更なし。
・女子のユニフォームで、シャツが外に出る形のものがあるが、審判員からは入れるように指導している。
◇代表者会議に参加される際の服装について　(別紙参照)

②審判規則委員会
◇平成21年度審判規則委員会の基本方針
◇平成21年度6人制ルールの取り扱いについて
・全国大会では、新ルールを適用する。
・選手が事前に準備しなくてはならないルール改正であれば常任委員会で検討されるべきことであるが、審判員がルール上の取り扱いを変更すればよいことなので、審判規則委員会で決定した。
◇研修会報告
・3/26～28北海道ブロック審判研修会(芦別市)　→　地区対抗第18回北海道中学生優秀選手選抜大会視察も実施
・3/27～28九州ブロック審判研修会(鹿児島県)　・3/29大分県審判研修会(由布市)
・4/25審判規則委員会(練馬区石神井西中)　・4/26関東ブロック審判研修会兼関東中体連審判研修会(榛東村)
◇東海ブロック審判研修会開催要項6/21大垣市
◇全国審判委員長会議12/27大阪府立体育会館

③指導普及委員会
◇活動方針及び事業計画
・昨年度から東京・東部地区・西部地区に分けて行っている。
◇東部地区:北海道　9/19～20(案)別紙参照　　西部地区は愛媛　11/21～22　松山市立久谷中学校(要項は8月に)

④強化委員会
◇年間計画
＜訂正＞・2⑵平成20年度→21　・3⑴①平成19年度→20　・②平成20年度→21
◇選抜強化(第一次)合宿要項
◇第一次合宿推薦要項
・ブロック長に、メール添付で送信する。
◇中高合同選抜強化合宿報告
◇ブロック別長身者強化合宿
・修了証は、夏休み中に担当者に送付する。担当者が決まり次第、練馬区立石神井西中学校・中村事務局員へ
・9ブロック長身者合宿をどうするか。やるならばしっかりとやっていく必要がある。意義のあるものだが、課題もある。
(意見)
・力を入れている。選手も出してくれるようになった。だが指導者がいない。強化か、選考かはっきりしない。
・強化合宿を年2回行っている。予算がつくとありがたい。
・続けてはいるが、強化なのか発掘なのか。データをとるのに精一杯で、強化になっていない。U14大会もあり、いろいろなことが目的はっきりしていない。
→1、2年生が発掘できるいい機会である。八子がいい例。
・JOC杯は3年生なので、1年生をできるだけ発掘するという目的に変えていけば。
・発掘　→　強化になってきているようだが、あいまいなのではっきりしてほしい。

・9ブロック長身者合宿のブロックごとの「合宿報告書」を作成するようにしてはどうか。
・JVA：萩原国内事業本部長より　発掘から主旨が違ってきている。北海道の合宿ではいい選手が出ていた。成田強化事業本部長からも話があったように、このままでは、男子に長身選手がいなくなってしまう。もう一度、1年生から発掘という視点に戻ってみてはどうか。
・平手部長　今年度1年かけて、強化委員長、指導普及委員長を中心に検討していく。

2. 協議事項

1)平成20年度収支決算について

別紙の通り、報告。阿部監事からも監査報告を受け、承認。

2)平成21年度予算関連

◇大会交付金
・7月中に申請を済ませること。決算書の提出が遅いので、年内には提出されるようにお願いしたい。
◇阿部監事より　配賦金が少しずつ増えてきているので、いいお金の使い道を考えていきたい。MRSを進めていきながら、配賦金を子どもたちに還元できる執行をお願いしたい。
◇平成22年度第40回全日本中学校バレーボール選手権大会開催に伴う「40周年行事」
100万円積み立てを目標→20年度末　80万円積み立て済み　→　「記念誌」発行を計画
・記念誌作成(案)　平成23年1月発行をめざしたい。
◇「各都道府県バレーボール協会連盟別選手登録数一覧」、
「財団法人日本中学校体育連盟バレーボール競技部チーム登録・選手登録数一覧」 資料説明
MRS配賦金：19年度に対し、724，008円の増。（登録人数にして、7，673人の増）
常任委員の方々も競技部の役員としてぜひ登録していただき、配賦金にご協力いただきたい。
　メンバー用加入コード　→　レジュメ参照
JVA：斎藤国内事業部長よりMRS関連
・個人情報が入っているので、個人情報保護をしっかり考えつつ、今年度、中高のみ登録方法を簡略化した。
・昨年度、東京都の中学校の先生に来ていただき、意見交換した中で要望を受け、技術開発し変更した。
・中学校の登録が進むよう今後もシステムを改善していきたいので、ご意見をお寄せいただきたい。
・まだ始まったばかりの制度ではあるが、より競技部に還元できるような形で進められればいいと考えている。

3. 事務局より

1)競技役員名簿の作成

・ブロック長：各都道府県専門委員長の確認・報告、各業務委員の推薦・報告をお願いしたい。
・各業務委員長：委員の推薦・報告をお願いしたい。
→記入用エクセルデータを事務局より送付→6月30日までに事務局へメールで報告して下さい。
→第2回常任委員会で名簿を配布する。同時に、依頼状・委嘱状もお渡しする。

2)HPについて

・試行新HP　http://mkmk.under.jp/vb/
　アクセスしてご確認下さい。新役員が決まり次第、アップしていきたい。
・スポンサーは削除し、今後は載せない。

3)「平成20年度第3回常任委員会会議録」

・前回分を再配布したので、必ず再読し、今回の会議録と読み合わせし、確認して下さい。

4)次回、第2回常任委員会について

・平成21年8月18日(火)　会場：大分県別府市青山公民館　競技部会終了後、開催

JVA：成田強化事業本部長より閉会にあたり
会議に同席させていただき感謝している。底辺なくして、トップはないと考えている。今後もJVAに対し、競技部のご理解、ご協力をよろしくお願いしたい。

閉会のことば　阿部監事

平成21年度がスタートしました。さまざまな検討事項がありますが、新体制の元、ご尽力下さい。長時間にわたってご苦労様でした。

第3回 常 任 委 員 会　会 議 録

日　時:平成21年11月29日(日)13:00～16:45
会　場:ホテル機山館　会議室
出席者:部　　長　平手　陽
副 部 長　大村暢彦(北海道)、髙橋憲太郎(審判規則委員長)、三上和男(競技委員長)、勝見俊也(強化委員長)
常任委員　渡部隆一(東北)、関口　満(関東)、賀子貴和(北信越)、高橋容一郎(東海)、山野上聖一(近畿)
蕨　敦志(中国)、樋野慎平(四国)、吉村英樹(九州)
指名常任　神山信次郎(指導普及委員長)、吉田征弘(事務局長)
監　　事　栗原博之
事 務 局　大塚洋一(競技主事)、安藤祐枝(強化主事)、渡辺　裕(指導普及主事)、中村哲也、石井良輔

配付資料
1　(財)日本中体連バレーボール競技部　第3回常任委員会　レジュメ
2　JOCジュニアオリンピックカップ　第23回全国都道府県対抗中学バレーボール大会　開催要項
3　〃　予選組合せ表(男子・女子)
4　〃　決勝トーナメント戦組合せ表(男子・女子)
5　平成22年度　全国中学校体育大会　第40回　全日本中学校バレーボール選手権大会要項(案)
6　平成23年度　全国中学校体育大会　第41回　全日本中学校バレーボール選手権大会要項(案)
7　平成22年度　9ブロック大会　都道府県参加数
8　平成22年度　9ブロック　都道府県別開催日程・場所
9　大会使用球に関するアンケート結果
10　平成21年度第39回全日本中学校バレーボール選手権(大分)大会「審判規則委員会　三役会議報告書」
11　(財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部　審判規則委員会開催要項(案)
12　〃　北海道ブロック審判研修会開催要項(案)
13　〃　九州ブロック審判研修会開催要項(案)
14　〃　関東ブロック審判研修会開催要項(案)
15　関東中学校体育連盟バレーボール競技部　審判研修会開催要項(案)
16　(財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部　東海ブロック審判研修会開催要項(案)
17　東海ブロック審判研修会の開催に向けて
18　(財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部　岡山県審判研修会開催要項(案)
19　平成22年度　全国中学生バレーボール指導者研修会
20　強化委員会報告
21　平成22年度　全国中学生「長身選手発掘育成合宿」実施要項(案)
22　2009 日韓遠征メンバー・試合結果
23　2009　日韓中学選抜バレーボール親善交流大会報告(男子戦評)
24　平成21年度中学全国9ブロック合宿日程表
※　第1回全国中学生ビーチバレー大会　企画書

◆常任委員会開会に先立ち、
「平成22年度第1回全国中学生ビーチバレー(4人制)大会」について、(財)神奈川県バレーボール協会副会長の白石武彦様、藤沢市教育委員会生涯学習部スポーツ課長の宮澤光明様より「大会企画書」の提示があり、下記の通り、協力依頼があった。
過去2回の関東中学生ビーチバレー交流大会(4人制)の開催実績
第1回:平成20年8月16日(土)　男子21チーム・女子27チーム　参加
第2回:平成21年8月30日(日)　男子20チーム・女子24チーム　参加
主　催:大会実行委員会、(財)神奈川県バレーボール協会、藤沢市・藤沢市教育委員会
主　管:大会実行委員会、藤沢市バレーボール協会
後　援:神奈川県、神奈川県教育委員会、(財)藤沢市スポーツ振興財団、(社)藤沢市観光協会、
ビーチバレージャパン実行委員会

協　力:関東バレーボール連盟、神奈川県ビーチバレー連盟
協　賛:大塚製薬(株)、(株)ミカサ、第1回大会→(株)ゴールドウイン、第2回大会→タカナシ乳業(株)
会　場:神奈川県藤沢市鵠沼海岸　常設ビーチバレーコート

国内ビーチバレーの発祥の地とされ、年間延べ67,000人が利用する常設ビーチバレーコートを有する藤沢市は上記大会を開催するに当たり、国の施策である「スポーツ拠点づくり推進事業」の支援を申請している。また、来年度に市制70周年を迎えるので、その記念事業の一つとして、この大会を立ち上げたい。大阪府阪南市箱作海岸ピチピチビーチで開催されている「全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会」は高校生男子を対象にしたものであり、中学生男女を対象とした全国規模の大会(男女各48チーム　参加者数約560名　大会参加費1チーム3,000円　大会経費約959万円)をぜひとも藤沢市で開催したい。過去2回の関東大会では関東バレーボール連盟に「協力」という形でご参加いただいた。(財)日本中学校体育連盟の様々な決まりの中で難しい面も多々あることと思われるが、前向きな検討をお願いしたい。

平手部長より「このことについては、(財)日本中学校体育連盟(以下、「日本中体連」)や(財)日本バレーボール協会(以下「JVA」)との兼ね合いもあり、ここで質疑を受けても具体的なお話ができない。本日はお話を聞ききしたと言うことで止めたい。」とのことで、白石氏・宮澤氏が退席された。

1. 開会のことば　大村副部長

2. あいさつ　平手部長

◆本競技部では現在、全国大会における合同チームの参加について・全国大会での使用球について・長身選手発掘育成合宿について・日韓交流試合のあり方についてなど、検討が必要な諸課題が山積しています。本日の会議も効率よく進めていただきたい。

◆日本中体連には18の競技部がある。それぞれの競技部毎に様々な課題があり、またそれぞれの競技団体との課題もあるようである。本競技部とJVAとは連携し、協力し合い、たいへんに良い状態にあると認識している。

◆日本中体連では、競技部長の選出に当たり全国の競技部長＝ブロックの競技部長＝都道府県の競技部長とならず、ばらばらの競技部が複数ある現状に対して、今後は同一人になるよう一本化していく考えである。

3. 報　告　平手部長

⑴合同チームの扱いについて

日本中体連の基本的な考え方は、バレーボール競技であれば、両チームが6名に満たない場合に合同チームを組むことができるとしている。しかし、都道府県大会やブロック大会では、それぞれの地区の考え方で出場を認めているため、各大会を勝ち抜き全国大会に出場する合同チームについての扱いは、各競技部に任されているのが現状である。強化(試合に勝つこと)目的で合同チームを編成し、全国大会に駒を進めるケースもあるようで、合同チームの出場を認めることとした本来の意義(部員数の少ない学校の生徒にも大会に出場できるチャンスを与えるため)から逸脱してしまっている。再検討の必要があるのではないか。各ブロックの現状について、ご報告願いたい。

北海道ブロック:どちらか一方のチームが6人に満たない場合、合同チームを認めている。
東北ブロック:各県の規定により合同チームとして推薦を受けたチームをブロック大会に出場させている。
関東ブロック:ブロック大会は、両方とも 6 人に満たない場合。ただし、各都県大会では違う。都大会では、特別ルールということで大島(離島)は3チーム合同を認めた。東京都では、合同チームが勝ち進んでもブロック大会への出場権は与えない。
北信越ブロック:どちらか一方のチームが6人に満たない場合でOK。各県で違いがある。レンタル(6人人に満たないAチームにBチームから１人貸し出す)ことも認めている。
東海ブロック:どちらか一方のチームが6人に満たない場合でOK。レンタルも各県によって違う。合同チームを組む場合、両校の距離が遠いのは教育的ではない。
近畿ブロック:大阪府は両校が6人に満たない同一市町村内。和歌山県は、どちらか一方満たない場合。しかし実際問題、6人では怪我や今般のインフルエンザのことを考えると6人＋αの合同があってもいいのでないか。柔

軟的に考える必要があるのではないか。

中国ブロック：岡山県はどちらか一方が 6 人に満たない場合でOK。他県も同じ。レンタルや3校合同も、他県は認められている。

四国ブロック：どちらか一方が6 人に満たない場合にOK。レンタル、3チーム合同もOK。ある程統一された線が必要ではないか。

九州ブロック：同一市町村内で、両校が 6 人に満たない場合にOK。レンタルで貸し出す選手は、6 人に満たないチームが大会に出場するための救済措置であるので、原籍チームでベンチに入れない（13 番手以降）選手としている。

上記の現状からして、日本中体連へは、本競技部として

全国大会に出場を認められる合同チームの条件は、「一方のチームが6人に満たない2校」と要望する。

⑵長身選手発掘育成合宿について　平手部長

合宿の捉え方にブロックで違いがある。「発掘育成」という当初の目的に戻って行いたい。

勝見強化委員長　平成22年度　全国中学生「長身選手発掘育成合宿」実施要項（案）参照

TOTOの財源によって行われているJVA事業であるため、本来の目的であるオリンピック有望選手を発掘育成するという目的に沿って実施する。男子50名、女子50名、指導スタッフ50名、計150名を2月に一カ所に集めて行う。参加条件を満たしていれば、全員参加させたい。男子は身長・最高到達点のどちらかを満たしていれば参加させる。食事指導も含めた講習会も行いたい。ブロック毎にやっていたものを一本化する。合宿開催中に本競技部強化委員会を開催し、委員間の連携を強める場にもしたい。

JVAは「中学生の段階で強化していかないと全日本の競技力はアップしない。まだまだ発掘されない良い選手が地方に埋もれているのではないか。」との認識である。高校の合宿は従来通り実施する予定である。

東西に分け2か所で開催する案を出したが、実施するとなると誰がリーダーとなり、誰に声をかけるのか等、責任の所在がはっきりせず難しいであろう。ブロック毎に開催してきた合宿では、指導者の派遣や使用するボールの準備等、JVAに対し不満も多々出されてきた。長身選手発掘育成の趣旨を十分に生かし、合宿予算を有功に利用して合宿を開催してきた九州・北海道ブロックの意見を聞きたい。

吉村九州ブロック長：意義のある合宿であったが、全体のことを考えると一本化して開催することもやむをえない。

大村北海道ブロック長：ブロックで開催できないことは、北海道としてはたいへん辛い。また、実施要項（案）の日程だとブロックからスタッフを出すことが難しいと思われる。

勝見強化委員長：原則、ブロック指名の強化委員に参加していただきたい。校務の関係もあるので必ずではなく、今後のことも考え引き継ぎ等も考慮していただき、代理の方の参加をお願いしたい。

関口関東ブロック長：推薦を受けたが、諸事情等で合宿に参加しなかった場合、今後選抜される資格はなくなるのか。

勝見強化委員長：教育的に配慮したい。オリンピック選手へ繋がる第一歩である。データを集約する場ともしていきたい。

吉村九州ブロック長・山野上近畿ブロック長：開催時期が、3月に開催されるブロック連盟主催大会の各県予選時期と重複するので、再考をお願いしたい。

勝見強化委員長：日程はまだ流動的であり、どの時期がいいか確認したい。日韓交流の日程等と合わせてアンケートを実施する。

⑶大会交付金決算報告について　吉田事務局長

・四国ブロック：高知県、北信越ブロック：新潟県は、早急にJVAに提出するよう連絡していただきたい。

・近畿ブロック：兵庫県の精算方法（領収書の扱い等）について、山野上ブロック長よりJVAに確認し、善処願いたい。

⑷JOC ジュニアオリンピックカップ　第23回全国都道府県対抗中学バレーボール大会について　山野上大会競技委員長

・大会要項の確認

・参加費（選手一人 2,000 円）は、スムーズに振り込まれている。

・チーム関係者は、ホームページをこまめにチェックしてほしい。

・12/24 の練習割当は、組合せにより機械的に決定している。今年度は時間をずらして設定した。使用しなくてもよい。

・テレビ放映あり。別紙日程参照のこと。

・今大会、協賛社が1社もなくなる。
・特別表彰選手選考委員会（成田＋平手＋8名＝10名の経費を大会予算から支出）
選考委員長：成田昭彦JVA強化事業本部長
選考委員：平手　陽部長、竹村昭浩・半沢一郎両強化副委員長、安藤祐枝強化委員会主事、
日笠智之・吉村英樹・加藤啓吾・大谷将博各強化委員・渡辺　裕事務局員　以上10名
勝見俊也強化委員長、神山信次郎指導普及委員長、吉田征弘事務局長の3名分を本競技部予算から支出
・財間常文大会事務局長が、今年度末で退職される。来年度以降も事務局長をやってほしいとお願いしている。

4. 協　議

Ⅰ　第39回全日本中学校バレーボール選手権(大分)大会の反省　　吉村九州ブロック長

・インフルエンザ発症への対応やアルコール消毒液等の経費支出など、特別なことがたいへんであった。
・健康観察、及び大会終了後の追跡調査は日本中体連でも非常に評価された対応であった。
※山野上大会競技委員長：JOCカップは学校単位のチームではないので、インフルエンザが1人発症したら出場を自粛しなさいとは言えない。チームの出場は認める。欠員が出ても致し方ない。毎朝の健康チェック、会場入場時のアルコール消毒、マスク着用を呼びかける。
・大会事務局は、大会開催中に変更・訂正したことをマニュアルにきちんと反映させ、次期開催地に引継いでいただくことをお願いしたい。

Ⅱ　第40回全日本中学校バレーボール選手権(岡山)大会要項(案)　　蕨中国ブロック長

・「3　主管」と「4　後援」の順番を入れ替えた。
・「13　参加申込」は仮のものである。
・「16　宿　舎」　近畿日本ツーリスト（株）岡山支店に決定した。
・「18　連絡先」　本部宿舎が、「岡山全日空ホテル」に決定した。
・「大会ホームページ」　岡山市のホームページから4月に開設する予定である。
平手部長：日本中体連から経費を削減するよう言われている。レセプションも行わないことを原則にしている。今までやっていたことを自分の担当大会から無くすのは難しいが、我々の意識を変え協力していきたい。
蕨中国ブロック長：岡山県・岡山市は、施設使用料の減免がない。施設使用料、空調費だけでも莫大な経費が必要となる。全国大会各競技を開催する中国ブロック各県で経費削減のため、大会参加賞と視察員の弁当を出さないことが決まった。
会場での広告看板掲出代金50万円を大会が負担することについて、日本中体連と大塚製薬で話し合い、大塚製薬が負担するよう要望していただきたい。掲出代金が必要な施設もあるので大きな負担になる。

Ⅲ　第41回全日本中学校バレーボール選手権(大阪)大会要項(案)　　山野上近畿ブロック長

・会　期：平成23年８月17日（水）～20日（土）
・会　場：大阪市中央体育館：メイン会場5面、大阪府立体育会館：サブ会場5面
・施設使用料の減免はなく、空調費も高く、大会予算が膨大なものになる。
・旅行代理店は 12/4 に5社がプレゼンし、12/22 に決定する予定。
・近畿ブロック全府県で大会参加賞を無くす方向である。
・大会役員ポロシャツ製作メーカーをどうするか。全種目統一にしたら安価にできるのではとも考えている。
→　平手部長：大会実行役員以外の本競技部役員等は、ポロシャツの支給は1枚で十分ではないか。
・中学校体育館の練習会場はなし。近くのスポーツセンターを開放する予定である。
・経費削減のため、プラカードを持ち回りはできないか。大阪大会は、JOCカップのものを利用する。
・役員への日当の有無、額について　→　本競技部の決まりはなく、開催地の決まりでやっていただいている。

Ⅳ 各業務委員会

①競技委員会　　三上競技委員長

⑴平成22年度　9ブロック大会　都道府県参加数

⑵平成22年度　9ブロック　都道府県別開催日程・場所

訂正　東　京　H22.7.23・25・27　→　H22.7.22・24・27
北海道　開催場所　富萌市　→留萌市

・全国大会参加申込書は、ブロック大会出場校数分を全国大会事務局からブロック大会開催県に送付する。

⑶大会使用球に関するアンケート結果ついて

アンケート結果を元に議論をした。ニューボール導入について積極的な賛成はなかった。しかし使用する選手（生徒）の競技力向上を考慮したとき、小学生、高校が導入を決め、挟間の中学校であること。また、メーカーが生産ラインを一本化するのであれば、導入もやむをえないとの意見があった。

反対の理由は、メーカー主導の変更で今後また変更になるのではという危惧があり、ミカサ・モルテン両社のボールが、色のみでなく形状が著しく違い、価格がアップするので、各中学校指導者から変更する説明を求められても、納得してもらう説明ができないということであった。

本競技部が検討し、決定するのは「全国大会での使用球」である。ここで結論を先延ばししても致し方ないし、今後の見通しを示す必要もある。メーカー両社に、価格について一定の猶予期間を要望し、導入決定から実施まで１年以上の猶予期間を設ける方向で進めることとした。

具体的にいうと、平成22年８月の岡山大会中の競技部会で使用球の変更について審議し、11月の日本中体連理事会に提案し、決定していただく。平成23年8月開催の大阪大会まで9ヶ月しかなく、既に各地区で新人大会も実施済みであるので、平成24年8月開催の東京大会から使用することとする。

平手部長:ミカサ・モルテン両社の責任ある方に、部長・三上競技委員長・吉田事務局長の3人で 1/8 に会い、価格や今後の形状変更に対する皆さんのご意見をお伝えし、善処願うよう話し合いを持つ。

ブロック長から、「全国大会の使用球を変更する旨を各都道府県だけでなく、各チーム指導者に伝える文書を出してほしい。」という要望が出された。

②審判規則委員会　髙橋審判規則委員長

⑴全国大会開催時における三役（委員長・副委員長・主事）会議の報告

協議内容　２　①ユニフォーム規定について　→　ブロック大会ですべて改善できるように指導したい。
②試合セット間における当該審判員に対する「飲料・おしぼり」の提供をやめること。これまでも引き継ぎで、提供をやめるようお願いしているが、復活している。県バレーボール協会や県中体連の指示・指導等で変わってしまうことがあるかもしれない。かなり違和感のある行為なので、今後は止めていただきたい。

４　全国大会開催事前ブロック審判研修会を更に能率よく行うため、副委員長を１名増員し、３名で指導に当たりたい。　→　了承される。

⑵平成22年度審判規則委員会開催要項(案)

⑶北海道、九州、関東、東海各ブロック及び岡山県審判研修会開催要項(案)

③指導普及委員会　神山指導普及委員長

・全国中学生バレーボール指導者研修会報告

東部:北海道(9/19・20)　約70名参加、西部:愛媛県(11/21・22)約70名参加

JVAから250万円の予算立てで実施している。北海道開催で約60万円、愛媛開催で約50万円の支出であった。

東京開催については、日程と会場確保の関係で、残念ながら今年度開催は断念した。

・この指導者研修会は、日体協スポーツ指導員の4年に1度の義務研修として認められている。従来1.5日の受講であったが、来年度からは1日の受講でよいことにしていただいた。

・昨夜開催されたJVA指導普及委員会の席上、「平成22年度は8ブロック（北海道・東北で 1 ブロック）すべてで実施する。」旨、依頼された。JVA指導普及委員会として本競技部に大きな期待を持っていることは理解するが、平手部長に事前の連絡もなく、急な提案に驚いている。JVAの1委員会が加盟団体の長になんの相談もなく提案することは考えられない。本競技部として3会場開催にしてまだ2年目である。この方針で来年度も計画する。

平成22年度　全国中学生バレーボール指導者研修会

会　期　平成 22 年7月～12月内の1日研修

会　場　東部地区:北信越ブロック（開催県未定）、西部地区:九州ブロック（熊本県）、東京の3会場とする。

④強化委員会　勝見強化委員長

⑴1次・2次合宿、日韓交流報告

吉村男子チームコーチ:韓国チームは2m台が2人。日本は190cm 台が2人と小ぶり。試合は接戦が多かったが、

勝ち越すことができた。都内で行った3会場の各中学校は、両国に対して全校応援してくれた。とてもよいことだと感じた。韓国では、食べ物の影響からか、体調を崩した選手が複数あった。
選抜合宿に参加しながら、「選ばれたくなかった。」・「参加したくなかった。」という選手があった。一次合宿参加時に「全日本に選抜された場合は参加する」という「承諾書」を提出してもらう方が良いのではないか。最後的には全員、選ばれてよかったと感動していた。高橋治憲団長、吉川　渉スーパーバイザーからお誉めの言葉をいただいた。

吉田女子チームマネージャー：気の優しい、まじめな性格の選手ばかりのチームで、全国大会等大きな試合の経験が少ない選手が多かった。大型のセッターとして期待していた選手に一次合宿から辞退されてしまい、チーム構想を変更せざるをえなくなってしまった。また、大型で試合経験のある打ち手もなく、厳しい試合が予想された。しかし、サーブとブロックがとてもよく、結果的には6勝全勝することができた。男子と違い女子は、選手は好調だったが、食事の関係かスタッフの体調維持に苦労した。今回の遠征地であるヘナム市は、スポーツを通して青少年を育成していこうという市でたいへん歓迎していただいた。

平手部長：校務のため日韓交流に参加することができず、団長を本競技部副部長にお願いしようと考えた。しかし、他の海外遠征の事後処理でクレームがあり、その対応に苦慮したケースがあったとのことで、団長は男子：高橋治憲前部長（JVA監事）・女子：岡崎庄蔵JVA監事（今回で３回目）にお願いしたことをご了解願いたい。

勝見強化委員長：現在、JOCカップ前に各チームから選抜し、遠征していることはたいへん申し訳なく思っている。しかし、JVAが単独で行っている事業ではなく、日韓両国オリンピック委員会が行っている事業なので簡単に変更はできない。そこで、来年度の日韓交流試合は、JOCカップが終わってから男女合同で1月2日から韓国遠征1週間。帰国後、国内1週間で交渉中である。5月の第1回常任委員会に具体的な提案ができると思う。

⑵全国中学生「長身選手発掘育成合宿」
平成21年度9ブロック合宿

・合宿予算総額が200万円オーバーしている。各ブロックとも予算額の1割削減で実施していただきたい。
・日程表について　JVA派遣講師と直接、打ち合わせをしてほしい。未定の北海道・東北・九州ブロックについては、追って連絡をする。講師関係経費は、JVAから支出されるのでTOTOの予算には計上しないこと。
・訂正：「平成21年度中学全国9ブロック合宿日程表」の九州ブロック　JVA派遣欄の3名の名前を削除。
★ブロック長からの要望：JVA派遣講師が私立高校監督の場合、選手を出さない学校が出る。そうしたことを十分配慮した上で選考願いたい。　→　高梨泰彦一環指導教育副委員長に平手部長から申し入れる。

平成22年度全国中学生「長身選手発掘育成合宿」実施要項（案）
「3. 報　告　⑵長身選手発掘育成合宿」 で審議済み

Ⅴ　各ブロック長より

樋野四国ブロック長：大会での試合中、ルール上の罰則で監督がベンチ不在となった場合、コーチが教員ならOKだが、コーチが教員でない（あるいは、コーチがいない）場合は、どうなるのか。
平手部長：日本中体連の決まりで、引率責任者不在で試合は不成立となり、その時点で没収となる。

5. 事務連絡

①<u>平成22年度第1回常任委員会は、5月29日(土)13時～　都内会場にて開催予定。</u>
②ホームページを見ていただきたい。愛媛開催の指導者講習会申込みをダウンロード対応できるようにした。今後もそうした利用を進めていきたい。また、北海道中体連バレーボール専門委員会もリンクした。連絡いただければ、リンクも増やしていきたい。岡山全中も開設され次第、リンクする。

6. 閉会のことば　勝見副部長

「グラチャン」での男子メダル獲得は、皆様方の献身的なご協力による本競技部の中学生に対する取り組みがあってこその成果である。この常任委員会における一つの言葉で、大きなことが決まっていくことに気が引きしまる思いである。各自、体に気をつけて、12月の大阪JOCカップ、また来年5月の第1回常任委員会でお会いしましょう。